▲授業終了後、質問コーナーが設けられました。

「ブラックホールは何個あるの?」「宇宙人はいない の?」「宇宙の隅っこはどうなっているの?」「宇宙の 匂いは?」「地球以外に住める星はあるの?」など、 またとない機会に子どもたちからたくさんの鋭い質問 が投げかけられました。



◀三ツ星天文台のス タッフから惑星や天体 の説明を受ける様子。 天体望遠鏡では、土星 などの惑星が確認でき たほか、超新星爆発に より発生した星の跡な ども見られました。

加しました。

講演では、2024年10月に見



★講師紹介★

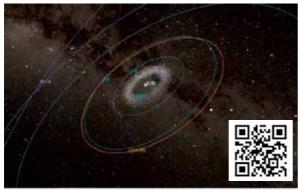
- ●神奈川県茅ヶ崎生まれ。
- ●小学校5年生のときに両親から天体望 遠鏡を買ってもらい、月や惑星に感動 して天文学者を目指す。
- ●現在、東京都三鷹市にある国立天文台 に勤務し、ブラックホールに関係する現 象を電波望遠鏡を使って研究している。
- ●世界ではじめて、ブラックホールの撮 影に成功したプロジェクトの一員

中川 ころ、 おり、 川根中学校の1年生・2年生が参12日は中川根中学校の2年生と本 年生から6年生の児童が参加 さんに来ていただきまし あい天文学」。この事業は、 三ツ星小学校と本川根小学校の4 天文台が国内外を対象に募集して 月 11 日 根中学校で開催され、 川 国立天文台職員の 根本町として応募したと (木)、12日 金) 永井 国立 洋

フから説明を受けました。 空を見ながら、永井さんやスタッ ありました。 など専門用語を交えながら説明 陽系の構造、 元デジタル宇宙プロジェクト ターを使用し、「 されました。 彗星の構造や仕組みについて説明 「紫金山アトラス彗星」を題材に、ることができると予想されている 夜は、三ツ星天文台で実際の а 宇宙における単位の数え方 k a) 後半は、 銀河の で惑星の位置や太 プロジェクト(M「国立天文台4次 成り立ちにつ プロジェク

授業を「出前」する事業 国立天文台の研究者が、 11 日 は

星々の成り立ちを知る



"Mitaka"

最新の観測データや理論モデルを用いて、太陽系 から天の川銀河、大規模構造といった、宇宙の階層 構造をリアルタイムに可視化するソフトウェアで す。地球から飛び立ち、観測されている宇宙の果て までを自由に移動して、天体の運動や構造を観察す ることができます。

紫金山アトラス彗星とは



- ・2023年に発見された彗星。
- ・2024年の秋頃に太陽に近づくと予想される。
- ・2024年10月頃に夕方、西の空に見えると予想される。
- ・マイナス5等級まで明るくなると予想されている(木星 はマイナス2等級)。
- ・これほど明るい彗星は一生に一度しか見られないかもし れない。